



**B O A R D O F S T U D I E S**  
NEW SOUTH WALES

**2012**

**HIGHER SCHOOL CERTIFICATE  
EXAMINATION**

# **Japanese Background Speakers** (Section I — Listening and Responding Part A and Part B)

## **Transcript**

### Familiarisation Text

FEMALE : 来年のワールドカップ、日本もオーストラリアも行けるといいですね。

MALE : そうですね。

FEMALE : そして決勝で日本とオーストラリアが対決するともっといいです。

MALE : その時にはぼくはオーストラリアが勝つといいと思います。

## Section I — Listening and Responding

### Part A

#### Question 1

男 : はい。みんな、静かにしてください。今日は我が校を卒業し、今、社会で活躍しているぼく達の先輩である林みち子さんをお招きしました。林先輩は我が校を卒業後、大学の建築科へ進み、現在は社員二百名の建設会社を運営されています。

女 : はい、ご紹介ありがとうございます。私は子供の頃からモノを作ることが大好きでした。それで、大学では設計を勉強して、卒業後、建築関係の会社に就職しました。でも、数年働いただけで、結婚、そして出産のために、残念ながら仕事を続けることができなくなりました。

男 : 女性はお母さんになったら家庭に入るっていう時代だったんですね。配偶者に養ってもらって家で子育てする生活、うらやましいと思いますが、どうしてまた働こうと思ったんですか。

女 : 子供たちが中学に入った頃、叔父が自営していた小さい建設会社を、たまたま手伝う機会があったんです。

男：　　へーえ、叔父さんの会社ですかあ。それはラッキーでしたね。女性の再就職って大変でしょ。今は大学卒業したって就職するの、けっこう、難しいですからね。

女：　　それは、女性に限らないですよ。叔父の会社では、ヘルメットをかぶって現場に出向くことも多く、事務所で図面を描いているだけではわからない、現場のおもしろさが体験できました。大学で勉強した建築の知識と経営能力をかわれて、叔父のあとを継ぐことになったんです。

男：　　えー、工事現場にヘルメットかぶって行くんですか。女性なのに大変そうですね。

女：　　女性なのによって言いますが。この仕事は体力もですが、精神力や仕事に対する情熱も大切な職場なんです。私が実際に土木作業をするわけはありませんから。

男：　　じゃあ、なんのために現場に行くんですか。

女：　　そりゃ現場で何が起きているか知りたいからですよ。何か問題が生じたときに、最も重要なのは人と人とのコミュニケーションでしょ。私は、現場で実際に作業をしてくれている社員一人一人とのふれあいをいちばん大事にしているんですよ。

男：　　わかりました。林先輩、今日は貴重なお話をどうもありがとうございました。

## Section I — Listening and Responding

### Part B

#### Question 2, Text 1

今日の講義ではグローバル化とアイデンティティについてお話をします。昨今、グローバル化が進む中、人、物の移動が活発になってきています。私の知っているイタリア人の老夫婦は若い時1ヶ月もかけて、船でオーストラリアに移民してきたそうです。でも、今は、人は気軽に国境を越え、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの国々に安い値段で旅行ができるようになりましたよね。また、親の仕事などで、海外に移動して育った子供たち、老後を海外で過ごすお年寄りなどと、国境や言葉を越えて移動する機会が増えています。

その一方、海外に行かなくてもデパートに行けば、様々な国からの食料品、家具、化粧品などが買えますよね。街の看板やサインも英語だけではなくいろいろな言語であふれています。みなさんも、電車の中で、アメリカのヒップホップを聞き、インターネットでも色々な文化や言語に日常的に触れて生活していませんか。日常生活を通して、色々な国の考え方、価値観、そして生活様式が国境を越えて、入ってきていると思います。そのような中で、日本の方が楽だ、日本を出なくてもいいと思うような人も多くなっていると聞いています。

グローバリゼーションが、一方では考え方、人や物の移動や流動性を促し、他方では一箇所にとどまる固定的な意識を高めるケースもあるようです。このようなグローバル化がもたらすアイデンティティへの影響とは何なのかということ考えていきたいと思っています。

## Section I — Listening and Responding

### Part B

#### Question 2, Text 2

宏： 僕の叔父が今仕事でシンガポールに住んでいるんだよね。

昭子： へ～、そうなんだ。

宏： だから、僕のいところもシンガポールにある日本人学校の高校に行ってるんだ。チャットで連絡取っているよ。

昭子： ふ～ん。

宏： でもさ、海外に住んでいても日本食も食べられるし、日本のビデオも見ているみたいだし、チャットの内容見ても、全然僕たちの生活と変わらないみたいだよ。

昭子： でも確かに、そうかもね。日本の音楽やドラマって海外でもすごい人気あるみたいだもんね。

宏： うん。

昭子： あとさ、アマンダ リーってマルチタレントがいるじゃん？テレビ、ラジオやCMでも活躍してる。。

宏： うん。知ってる。知ってる。

昭子： その人さ、インドネシアで生まれたらしいけど、お父さんがフランス系のアメリカ人でお母さんが確か中国系のインドネシア人。で、お母さんが再婚した相手が日本人なんだって。英語、フランス語、中国語ってとにかく色々な言語が話せるんだってよ。雑誌に書いてあったけどすごいよね。

宏： かっこいいよね。

昭子： で、結局さ、色々な文化や言葉の狭間で葛藤しているうちに、どこにも当てはまらない、クリエイティブな自分のアイデンティティをみつけたんだって。

宏： なるほどね、何人でもないと同時に、何人でもあるっていうのかな？

昭子： そうそう。

宏： それでさ、今度の日曜日なんだけど。。。 [fade out]